



ピックアップ新図書館

「トン、シュッ、ピロン！」本を置いて、利用カードを挿せば、貸出処理完了！

これまでの図書館では、本を借りる時カウンターに並んで順番を待ち、職員が1冊ずつ処理するのを待っていただいていたのですが、新しい図書館では利用の方がご自分で手続きできるようになりました。旧図書館からの移転の際に、蔵書管理用のICタグをすべての本に貼り付ける作業を行い、簡単かつスピーディーに、しかもセルフサービスで処理できる新しい情報システムの導入が実現しています。

ICタグを利用したサービスとしては、他にも、予約した本をカウンターに寄らずに受け取ることができる「予約資料受取コーナー」や、読み取った本の情報から次々と芋づる式に関連資料を検索する「おだけサーチ」が利用できる情報端末の設置などがあります。

どれも慣れれば簡単です。新しいシステムによるサービスをぜひご利用ください。



マイライブラリーを楽しもう

図書館の便利な使い方の一つとして、マイライブラリーの機能を紹介します。図書館のホームページから利用カードの番号とパスワードを入力すると、従来のインターネット予約や貸出延長に加え、マイライブラリーのページを持つことができます。このページで、貸出中・予約中の資料や新着図書一覧が見られます。さらに、ご自身で登録した好きな作家やテーマの図書が新しく図書館に入るとメールが届く、新着図書お知らせメールの設定ができます。

また、マイブックリストの機能で、貸出状況一覧や資料検索結果から簡単な操作で、これから読みたい本のリストや読書記録を作ることができます。貸出の記録は返却すると消えてしまいますが、マイブックリストを作成しておけば、後でもう一度読みたい場合に役に立ちます。どうぞ、自分だけのマイライブラリーをお楽しみください。

阿刀田 高館長よりご挨拶

これからの図書館（入館者50万人を達成して）

駅前の、とても便利なところに県立図書館が新設された。知の空間として多くの県民諸氏に恵みをもたらすにちがいない、と、これは強く信じていたことではあったけれど、開館して6か月、早くも当初の予測を超えて50万人の来館が成ったこと、言葉はわるいが、—それ見たことか—

私はほくそえんでいる。ご同慶にたえない。

図書館は本当に素晴らしい施設なのだ。あなたがなにかを学ぼうとしたとき、必要な資料があらかたそろっている。資料を探すために協力してくれる図書館員もいる。あなたが読書の楽しみに浸ろうとすれば、楽しい本も、十分に備えてある。ゆったりとしたスペースがある。さらに県立図書館は出会いの場としての役割を考え、大小いくつかのホールやルームを持っている。集団で学び、みんなで楽しむことができる。講演会や講習会も催されている。そして、ほとんどのものが無料で享受できるのだ。

だが、お立ちあい、この無料が少し悩ましい。素晴らしいことだが、安易には考えていただきたくない。あえてえげつない話をすれば、たとえば講演会、コストを計算すると参加者ひとりひとりから2,000円以上いただかなければ算盤が合わない。東京あたりのカルチャー教室ではそのくらいは取っている。それが税金でまかなわれていることは「どうかよい利用をしてください」ということなのだ。選ばれて受講者となりながら「欠席しよう。どうせただなんだから」と、こんな心理が横行するようではなさない。いろんな事情があるにしても利用者の良識があって初めてよい知の空間が育つことを知っていただきたい。さらに多勢が来館して、快く利用されることを願ってやまない。



Information

イベント案内

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ■「中高生フレッシュコンサート」 | 8月20日(火) |
| ■「阿刀田館長連続講座」 | 10月12日(土)～3月15日(土) |
| ■「筒井真理子氏朗読会」 | 10月13日(日) |
| ■「開館一周年記念事業」 | 11月17日(日) |
| ■「県民の日朗読会」 | 11月20日(水) |
| ■「IBBYオナーリスト2012—世界子どもの本展—」 | 日程未定 |

富士山世界文化遺産登録、国民文化祭など、山梨県にとって話題の多い年となっています。私達県民にとっても、身近だからこそ気づかなかったことを発見できる機会になるかもしれません。県立図書館の展示やイベント、資料調査等が山梨を深く知るきっかけとなれば幸いです。ぜひ楽しんで図書館をご利用ください。

(企画振興担当 岩間しのぶ)

編集後記

山梨県立図書館報
読書山梨134号

発行日 平成25年8月1日

発行：山梨県立図書館（かいぶらり）

〒400-0024 甲府市北口二丁目8番1号
TEL:055-255-1040(代表) 055-255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042
URL <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>
E-mail ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

事業報告

講演会
朗読会

大沢在昌氏講演会・吉岡忍氏講演会・朗読21公演

[2月3日・24日・3月24日]

「山梨の皆様へ最高の文化を！」そんな想いで阿刀田館長自らが企画したイベントを2月から3月にかけて続けて開催しました。その第一弾は2月3日(日)『新宿鮫シリーズ』などで人気のハードボイルド作家、大沢在昌氏を迎えた講演会「ミステリーと私」。作家としての道のりや創作にかける思いを熱く語っていただきました。続く2月24日(日)はノンフィクション作家の吉岡忍氏による講演会「本物の災害、本の中の災害」を開催しました。3.11の被災地を実際に歩きながら、見たこと、感じたこと、考えたことを吉岡氏ならではの視点でお話いただきました。3月24日(日)は「朗読21公演」。館長の講演と奥様で朗読家の阿刀田慶子氏の朗読でお楽しみいただきました。各回とも多くの皆様からご好評いただきました。

館長特別展・講演会

館長特別展・講演会

[4月16日～5月12日・4月17日]



阿刀田館長特別展を、早稲田大学文化推進部の協力により、4月16日(火)から5月12日(日)まで交流ルーム101・102で開催しました。会場には、自筆原稿のほか直木賞正賞の懐中時計や、紫綬褒章、旭日中綬章など貴重なものが多数展示され、県内外から訪れたたくさんの方々が見入っていました。館長と交流の深かった井上ひさし氏、向田邦子氏の著作本コーナーも設けたところ、多くの方に利用していただきました。



4月17日(水)には、阿刀田館長の講演「作家である私」を行いました。高校・大学時代のことから、国立国会図書館勤務を経て小説家となるまでの過程や、小説への思いなど、ユーモアを交えたお話に会場は終始なごやかな雰囲気に包まれました。講演会に続いて、館長著作『闇彦』の朗読DVDの上映も行いました。

入館50万人

入館者50万人達成!

[5月24日]

平成25年5月24日(金)、昨年11月の開館以降、山梨県立図書館の入館者が50万人となり、開館当初の1年間の目標とした入館者数を約半年で達成しました。

メインロビーにおいて達成記念セレモニーを開催し、50万人目の入館者となられた甲府市在住の親子2人に、阿刀田館長のサイン入り色紙などの記念品を贈呈しました。

日頃ご来館いただいている全ての利用者に対し感謝するとともに、今後とも図書館サービスの充実に努めて参ります。



関東地区大会

関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会

[6月20日～21日]

平成25年6月20日(木)、21日(金)の2日間、イベントスペースにおいて平成25年度関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会を開催しました。「地域の中の図書館」をテーマに、講演やパネルディスカッション、研究発表を行い、県内外の図書館職員の他、一般参加も含め145名の参加がありました。

講演会朗読会

鴨下信一氏講演会・阿刀田慶子氏朗読会

[6月22日]

6月22日(土)「鴨下信一氏講演会・阿刀田慶子氏朗読会」を多目的ホールで開催しました。演出家である鴨下氏の軽妙な語りで始まった講演会では朗読について分かりやすく解説していただきました。続く朗読会では、鴨下氏によるアイマスクや照明といった演出で、阿刀田慶子氏の美しい日本語の響きをお楽しみいただきました。



資料展示報告

『資料展示報告』

- 1 「東日本大震災ー 3.11から現在まで」 [2月15日～5月31日]
- 2 「信玄公祭り関連展示」 [3月12日～4月14日]
- 3 「図書館戦争のロケ地から」 [4月16日～5月23日]
- 4 「こどもにすすめたい本 2013」 [4月23日～5月12日]
- 5 「『看護の日』を知っていますか？」 [4月23日～5月19日]
- 6 「甲府駅開業 110周年記念展示」 [5月24日～6月30日]
- 7 「富士山を読むー世界遺産登録記念」 [6月11日～9月29日]
- 8 「村岡花子が訳したヒーロー・ヒロインたち」 [7月2日～7月31日]



やまなし読書人

第2回 小宮山光江さん(山梨県立図書館協力員)

朗読のサークルに入ってもう十年になる。小さいサークルだが、仲間みんながこれはいいと思って取り組める作品を選ぶのに苦労する。聞きにきてくださった方たちに、「ああ、今日来てよかった」と心満たされ楽しんでいただけたらと願ってあれこれ本を読んでみて選ぶのだが、そうした読書も勉強になる。自然、図書館にはいつもお世話になっている。

図書館のために出来ることはないかと思って、少し前から県立図書館の協力員となった。フロアで利用者に声をかけたり、書架の整理をする。また、目の不自由な方のために館内で代読をするサービスを担当している。目の代わりをするのは朗読とはまた違ったテクニックが必要でそのための研修をしている。

私の人生の中で大きな比重を占めている図書館に感謝しつつ、いい図書館を作るのは、利用者であるわたしたち一人一人であるとも思う。図書館のサービスをどしどし受け、時間や知恵や特技を提供する、そんな関係ができればいいと思っている。